

熊本地震 ボランティア報告

2月と3月に15名を超える神戸教区の青年が、九州教区九州地震被災者支援室のボランティア活動に参加させて頂きました。またこれまで、地震発生から1ヵ月も満たない頃に現地を訪れ、その後も学校や仕事の休みをみつけてはボランティアに参加した青年たちがいました。昨年の神戸教区宣教140周年の祝会では熊本ブースを設け、現地の特産物の販売や募金活動などを行いました。その売り上げや、これまで皆様から頂いた募金の一部を今回の青年の活動に充てさせて



頂いた事を報告いたします。ご協力ありがとうございました。

支援室は、この4月から規模縮小はしますが活動を続けていきます。私も神戸教区の青年としてできる事をやっつけていければと思います。

(姫路顕栄教会信徒)

野間 陸



私は昨年5月以来2度目のボランティアでした。今回は手芸の集まりや巡回訪問という1年前にはなかった活動に参加しました。しかし、ブロック塀や瓦を土嚢袋に入れて集積場へ運ぶという作業もあり、これは私が前回した作業と変わっていません。ボランティア

の手を必要とされている方がまだまだおられるという事実が苦しくなりました。2日間かけて家の片付けのお手伝いをさせて頂いた家族の方が「本当にありがとう。みんなのこと一生忘れません。これで最後じゃないですよ。また会いましょうね。」と言って下さいました。地震によって失われたものはとても多いですが、神様は私達に出会いを与えてくださいました。ボランティアを通して出会えた人との繋がりをこれからも大切にしていきたいです。

(神戸聖ミカエル教会信徒)

笹 緋奈

教会建築シリーズ⑦ 徳山聖マリア教会編

「まねく集会室」

昨年11月に竣工を終えた新会館を用いて、多くの方々と交流の機会を得ようと、今年の総会で「2017年宣教プラン」を決議。その主題は「まねく教会」です。プランは大きく分けて三つあります。一つ目は地域の方々をサークル活動

やバザーなどを通してまねく交流プラン。二つ目はめぐみ幼稚園の在園児、卒園児それぞれ保護者を含めた交流プラン。そして最後に信徒と家族、とくに受洗されていないご家族との交流プランです。

新会館を用いて何ができるか？設計の段階で計画し、年末から試験的に始めたのが、集会室でのカフェ(マリアカフェ)です。半年間、不定期ですが8日間の開催で280名を超える皆様にご利用いただきました。そのカフェの運営には、婦人会を中心に、幼稚園や日曜学校の保護者にスタッフとしてご奉仕いただいています。



また教会では毎主日、昼食会を毎回行っています。これまで信徒・求道者が主に参加していましたが、今では日曜学校の生徒・保護者と共に昼食をいただきます(上段写真)。集会室のオープンキッチンを使い勝手が良く、配膳や片付けなど、参加しやすい造りとなっていることが功を奏しているようです。

教会に「まねく」ためには企画が大切ですが、「まねく」側である私たちの心の持ちようも大切です。ただ「まねく」だけではなく教会の活動ですから「共に行う」ことも重要です。信徒と集う人々がいろいろな活動を通してコミュニケーションを取り、自然にこの教会のサポーター(支える者)となっていただけのように、風通しの良い場所にしたいたいです。そして将来的には、まねいた方々が、いつかはまねく側になっていただけるよう祈り求めたいと思います。

徳山聖マリア教会の詳しい活動はホームページをご覧ください。

(徳山聖マリア教会牧師・

司祭竹内 宗)